

2025 年 12 月 26 日  
株式会社システムリサーチ

## 若手技術者が創出する AI 活用の価値と可能性、そして未来への挑戦 ～企業の枠を超えた共創でイノベーションを加速～

独立系 SIer である株式会社システムリサーチ(本社:愛知県名古屋市、代表取締役社長:平山 宏、証券コード:3771、以下 システムリサーチ)は、2025 年 11 月 18 日(火)に当社主催のイベント「AI 時代に向けた若手技術者の挑戦 2」を開催しました。



### 1. 「AI 時代に向けた若手技術者の挑戦」とは

本取り組みは、米国 International Business Machines Corp.(以下 IBM)が認定する「IBM Champion」※1としての活動の一環です。若手技術者を育て、地元産業の発展に貢献することを目的とし、中部地区の「IBM Champion」3 名(うち 1 名は当社社員)が中心となって推進しています。2024 年 4 月頃より若手技術者育成のためのコミュニティを本格的に立ち上げ、月に 1 回、会社横断で勉強会を実施しており、今年の 6 月に開催した第 1 回イベントに続き、これまでの活動成果を発表するとともに、中部地区で活動する本コミュニティの取り組みを広く知っていただく機会として、日本アイ・ビー・エム株式会社(以下 日本 IBM)のご協力のもと開催しました。

※1 IBM のソリューションやソフトウェアに対して、年間を通してそのテクニカル・コミュニティに優れた貢献をしてきた技術者や開発者、ビジネスリーダーを認定する制度です。

### 2. 企業の生成 AI 利用状況および生成 AI 利用時の懸念事項

総務省の調査「国内外における最新の情報通信技術の研究開発及びデジタル活用の動向に関する調査研究」によれば、企業の生成 AI の利用率は、米国・ドイツ・中国ではいずれも 90%以上と高水準であるのに対し、日本は 55.2%にとどまり、利用が進んでいないことが示されています。(図表 I-1-2-14)

図表 I-1-2-14 企業における業務での生成AI利用率（国別）

		(人)	(%)
	一つでも 業務で使 用中	回答者数	一つでも 業務で使 用中であ る割合
日本	244	442	55.2
米国	279	308	90.6
ドイツ	269	298	90.3
中国	296	309	95.8

（出典）総務省（2025）「国内外における最新の情報通信技術の研究開発及びデジタル活用の動向に関する調査研究」

出典：「令和 7 年版情報通信白書」（総務省）

<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r07/html/nd112220.html#f00045>

また、生成 AI 導入に関する懸念事項として、日本企業では「効果的な活用方法がわからない」という声が最も多く、活用方法の不明確さが課題となっています。（図表 I-1-2-15）

図表 I-1-2-15 生成AI導入に際しての懸念事項（国別）

	(%)			
	中国	ドイツ	米国	日本
効果的な活用方法がわからない	10.4	26.5	9.7	30.1
初期コストが掛かる	38.2	35.3	33.7	22.1
ランニングコストが掛かる	42.7	22.7	29.4	24.9
社内情報の漏洩などの セキュリティリスクがある	15.9	21.4	25.2	27.6
著作権等の権利を侵害する 可能性がある	12.0	15.2	14.2	19.8
出力結果の精度に問題がある	11.3	13.9	16.2	18.4
出力結果に倫理上不適切な内容や 偏見が含まれる可能性がある	7.8	6.8	11.0	12.6
懸念事項はない	8.4	7.8	9.4	14.4

（出典）総務省（2025）「国内外における最新の情報通信技術の研究開発及びデジタル活用の動向に関する調査研究」

出典：「令和 7 年版情報通信白書」（総務省）より作成

<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r07/html/nd112220.html#f00047>

### 3. 「AI を止めない・広げる・加速する」

イベントのオープニングでは、当社社員が上記に示す日本企業における AI 活用の現状や直面する課題を提示し、企業の競争力を維持・強化するためには AI の積極的な活用が不可欠であるとの認識を共有しました。その上で、本イベントのテーマである「AI を止めない・広げる・加速する」を掲げ、AI 活用の推進に向けた具体的なアクションを呼びかけました。

セッションでは、当社ならびに日本 IBM、さらに特別ゲストとして当社のビジネスパートナーであり、AI-OCR「DX Suite」※2 を提供する AI inside 株式会社が登壇し、AI エージェントを活用した最新事例や IBM 技術の実践的な活用方法をご紹介しました。

※2 AI-OCR「DX Suite」は、AI エージェントを搭載した AI-OCR が業界最高水準の読取精度であらゆる書類の読取に対応し、データ入力業務を自動化するサービスです。

#### 4. 若手技術者の挑む AI 活用の最前線

メインセッションでは、中部地区で活動する若手技術者による 2 つのチームが、企業の枠を超えて協力し、IBM のエージェント製品である「watsonx Orchestrate」※3 を活用したシステムを発表しました。今回の発表では、前回の課題を改善し、より実用的な機能を取り入れた内容となり、緊張感の中で挑んだライブデモは、会場の視線を一身に集め、見事に成功を収めました。システムが稼働した瞬間、拍手が沸き起こり、AI 活用の可能性に対する期待がさらに高まる充実したセッションとなりました。

イベントの最後には、日本 IBM 執行役員 大久保 そのみ氏より、「この2つのチームは、PoC(概念実証)プロジェクトにおいて大事な成功要因を押さえていた」と、これまでの取り組みを高く評価するとともに、今後のさらなる発展への期待が示されました。講評を通じて、参加者は自らの挑戦が業界にとって意義あるものであることを再認識し、次のステップに向けた大きな励みとなりました。

※3 watsonx Orchestrate は、IBM が提供する AI を活用した業務自動化プラットフォームです。



#### 5. 今後の展望

今後も継続的な活動を通じて、若手技術者のスキル向上を支援するとともに、企業における AI 活用の促進を図り、地域産業の競争力強化に貢献してまいります。生成 AI や AI エージェントなどの最新技術を積極的に取り入れ、実践的な知識と経験を共有することで、参加者が新たな価値を創出し、企業の DX 推進に寄与できる人材へと成長することを目指します。さらに、コミュニティを開かれた場として維持し、異なる企業や業種の技術者が交流しながら学び合える環境を提供することで、地域全体で AI 活用を加速させていきます。

#### 【若手技術者育成のためのコミュニティに関するお問い合わせ先】

株式会社システムリサーチ

製造システム事業部 製造システム3部

担当:ゼネラルマネージャー 毛利

電話:052-413-3118

【会社概要】

会社名:株式会社システムリサーチ

所在地:名古屋市中村区岩塚本通二丁目 12 番

設立:1981 年 3 月

代表取締役社長:平山 宏

資本金:5 億 5,015 万円

URL:<https://www.sr-net.co.jp/>

事業内容:SI サービス業務、ソフトウェア開発業務、ソフトウェアプロダクト業務、  
商品販売、その他(WEB サイト運営等)

【本リリースに関する報道お問い合わせ先】

株式会社システムリサーチ

経営企画部 広報 G 佐藤

TEL:052-413-6820

E-mail:[dept-ir@sr-net.co.jp](mailto:dept-ir@sr-net.co.jp)

- 本プレスリリースに記載されている会社名および団体名、サービス名は、各社・各団体の登録商標または商標です。